

審議会委員からのご意見等

資料4

項目	カラー版頁	最新版頁	内容趣旨	ご意見	回答
1	2	2	目次 第5章	2～4 「青少年の」「青少年を」が不要。 発達段階ごとに特徴的なことが記されているはずなので、青少年という複数の発達段階にまたがる用語を、見出しに使わないほうが良い。	次の理由により現行どおりとしたいと思います。 【理由】 P22 の施策体系図をもとに第5章に記述しており、それが目次に連動しているものです。 青少年という言葉を抜くと非行・犯罪の加害者・被害者がわかりにくいこと、また、学童期～ポスト青年期までを総称することから青少年という言葉そのまま使うこととしました。
2	8	8	(10)	達成率 90 → 90.0	ご指摘のとおりですので修正しました。
3	13	12	※中央値	「…平成30年の一世帯あたりの所得金額は、平均値が560万2千円になっているのに対して、中央値※は442万円…」としたほうが、意図した内容が伝わりやすいのでは。 また「中央値」の説明が、このままでは「所得」限定にも読めるため、一般的な説明とした方がイメージしやすいのでは。	ご指摘のとおりですので次のとおり修正しました。 (H30はH28の誤りでした。また、最近H29の数値が公表されたことから、修正後はH29の数値としています。) ・「平成29年の一世帯あたりの所得金額は、平均値が551万6千円となっているのに対して、中央値※は423万円…」 ・※中央値：データを小さい順に並べたときに中央に位置する値のこと。
4	15～16	14～15	不登校児童生徒の推移(グラフ)	不登校児童生徒数の推移のグラフのタイトルが高校の場合でも「児童生徒」でよいか。	ご指摘のとおりですので次のとおり修正しました。 ・小中学校の組み合わせグラフが見つからないため、小学校と中学校を分離して別のグラフで整理し、小・中・高の3種類の棒グラフを掲載しました。 ・併せて、グラフのタイトルは小学校を「児童」、中・高を「生徒」と修正しました。
5	17	16	子どもの貧困率	文章中に「子どもの貧困率」の記載があり、またその注釈が後にでてくることから、「子どもの貧困率※」とした方がよい。	ご指摘のとおりですので文章中に※を付し、また、貧困率の推移のデータの下に説明書きを移動しました。
6	17	16	※相対的貧困率	本文中にはこの用語は使われていないので、子どもの貧困率の説明のなかに組み入れたほうがよいのでは。	ご指摘のとおりですのでグラフのタイトルに※を付し、また、貧困率の推移のデータの下に説明書きを移動しました。
7	22	21	青少年の自助努力	青少年の「自助努力を求める」ことに違和感がある。計画のテーマの説明部分にあえて明記しなくても良いのでは。	ご指摘のとおりですので、計画のテーマから「青少年の自助努力を求めるだけでなく、」を削除しました。

項目	カラー版頁	最新版頁	内容趣旨	ご意見	回答
8	24 ~28	23 ~27	主要指標	<ul style="list-style-type: none"> • P23 の番号2「地域と連携した通学路の安全確保の取組状況」とP26の一番下の指標が重複していないか。 • P23 の番号3の指標が、第1期では女性も含まれていたが、今回女性を削除したことに何か理由があるのか。 • P15の番号15の注釈に“人権”“養育”とあるが、“教育”の誤りではないか。 • P26の番号28の指標について、第1期では高校もあったが、削除したことに何か理由があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> • それぞれの取組に関係しているため重複して掲載しています。再掲であることがわかりやすいように、後者の方は、番号欄の表記を「2（再掲）」としました。 • 女性の育児休業取得率は平成30年度において目標値を達成していたため、関係部と調整の上、男性の取得率のみを指標とすることとしました。 • ご指摘のとおりですので、誤りを修正しました。 • 第一期計画の指標は、就職先が道内外を問わない新規高大卒者の就職率でしたが、今回新たな指標として、関係部の計画との整合性を図り、新規大学卒業者の「道内」就職率を設定したものです。
			主要指標	<p>主要指標で目標値が100%となっているものについて再検討願いたい。（指標自体が客観的な数値データではなく、設問に対する回答率を目標値にしていながら、100%を目標値にすることに無理がある。）</p> <p>また、現状値と目標値がかけ離れており、はじめから達成が無理のように感じる指標がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「全国学力、学習状況調査」は国が毎年実施し、全国のほぼ全校で一斉に調査が行われているものであり、北海道教育委員会の定める「北海道教育推進計画」においてもその関連の指標に設定をしたものです。 このため、例えば「朝食を毎日食べている」も、全員がそうであってほしい、という高い理想の下、100%に設定しているものです。
			主要指標	<ul style="list-style-type: none"> • 現状値が既に100%の指標 引き続き、指標とする理由（例、「20」2） • 目標値の年度 R6とR4が混在の理由（必要性）。 	<ul style="list-style-type: none"> • 現状値が既に100%の指標を引き続き指標とする理由 → 目標値に対して現状を維持し続けることが重要なため100%としています。 • 目標値の年度 → 青少年計画はR6までを計画期間としていますが、他の関連計画においてはR4までを計画期間としているものがあり、目標年度を統一することができないものです。

項目	カラー版頁	最新版頁	内容趣旨	ご意見	回答
	24 ～ 28	23～ 27		<ul style="list-style-type: none"> 指標6 割合ではなく、数にしている理由。 指標7 対象事業の割合が減ったほうがよい理由。 	<ul style="list-style-type: none"> 指標6 → この事業はH18から0円予算で実施しており、企業の方に事業の趣旨を理解いただき、できるだけ多く参加いただくことを目的としているため、割合ではなく数としています。 指標7 → 関連計画においてH28の実績値が17.4%だったものに対しR4に20%以上との目標値を設定したものです。(H30は目標値を超えました。)
9	32	31	妊娠・出産を迎える人…	若年層で親となった人への支援ということでは、発達段階は、子ども側では「乳幼児期」等だが、支援を受ける当人ということではたとえば「青年期」ではないか。	次の理由により現行どおりとしたいと思います。 【理由】 この計画において対象の中心となるのはいわゆる「子ども」であり、その家庭への支援や社会環境の整備を行うこととしています。このため、若年層の親となった人への支援は、子育て中の親への支援という視点で記載しました。
10	34	33	○児童虐待の予防と早期発見	支援体制づくりといった、「支援」に関連するものも、見出しに含まれていたほうが、内容をより正確に表すことになるのでは。	次に理由により現行どおりとしたいと思います。 【理由】 第5章において支援について記載していますが、児童虐待は予防と早期発見が重要と考え現行どおりとしました。
11	34	33	家庭以外との接触のない子ども	下から5行目 「関係機関が…福祉や教育等、 <u>家庭以外との接触のない</u> …」 この文の意味を捉えにくく感じた。	ご指摘のとおりですので次のとおり修正しました。 「関係機関が安全を確認できていない子どもの情報を市町村において把握し、 <u>家庭以外との接触のない</u> …」
12	38	36	貧困状態にある子ども	「状態」ではなく、「状況」とするか、「にある」ではなく「に置かれた」とした方がよいのでは。貧困という困難を抱える家庭環境に置かれている子どもへの生活支援ということが、伝われば、それでよい。	次の理由により現行どおりとしたいと思います。 【理由】 以前の審議会で「困難を抱える」、「障がいを抱える」といった文言修正を行い、「困難を有する」、「障害のある」としたところでしたので、ここも「貧困状態にある」として整理を行いましたp。 状況：移り変わる物事のそのときどきのあり様（動的） 状態：人や物事の、ある時点のあり様（静的）

審議会委員からのご意見等

資料4

項目	カラー版頁	最新版頁	内容趣旨	ご意見	回答
13	39	37	乳児家庭全戸訪問事業、 養育支援訪問事業の着実 な実施	乳幼児期のものと同じ記載となっているが、児童期には該当しないのではないか。	ご指摘のとおりですので次のとおり修正しました。 「市町村における養育支援訪問事業の着実な・・・」 ※養育支援訪問事業は学童期も対象となっています。
14	41	38	キャリア教育の推進	主権者云々ということが、「キャリア教育の推進」という見出しのもとに入れるのは、不適當な気がする。この段落自体、ない方がよいと考える。	ご指摘のとおりですので次のとおり修正しました。 ・「主権者教育」については、関連計画である「北海道教育推進計画」において記載されているものですが、青少年健全育成の観点からは「キャリア教育」の方がよりふさわしい表現であることから「主権者教育」の内容を削除しました。 【削除部分】 「●児童自らが社会の一員であり、主権者であるという・・・児童の発達の段階に応じた学習を推進します。」
15	44	42	子どもを中心にライフス テージにあった方法で	これは、「子どもを中心に思春期というライフステージにあつた方法」という意味か。	思春期における食育について具体的に記述しました。 「生涯にわたり健康で豊かな食生活を実現するため、食生活や職の選択について正しい知識・情報に基づき、自ら管理、判断できる力を身につけることができるよう、学校給食を活用し、家庭、学校、地域が連携・」協働した食育の取組を推進します。」
16	44～ 45	45	顕彰を実施	「地域の文化や活動を通じた豊かな心の育成」という項目下に、「社会参加活動等を通じて地域づくりに貢献する青少年に対して顕彰を実施する」が挙げられているが、心の育成ということと、顕彰を実施するということの、関連がよくわからない。	ご指摘のとおりですので次のとおり修正しました。 「◎社会参加に向けた望ましい勤労観、関心の育成」の「○多様な体験機会の提供」の直下にある、青少年の各種地域活動等への参加の促進に含めて、地域づくりに貢献する青少年に対し「北海道青少年顕彰」を実施する旨記載しました。
17	45	43	生きる力を育む活動の充 実	「●学校教育で男女平等参画や人権も含めた広い視野から性の多様性について学習する機会を設けるなど、性的マイノリティに対する理解を深め、差別や偏見をなくすよう教育・啓発に努めます」の文の意味が理解しにくい。	次のとおり修正しました。 「学校教育で男女平等参画や人権について学習する機会を設けるほか、性的マイノリティに対する理解を深め、差別や偏見をなくすよう教育・啓発に努めます。」
18	48	44	一番下の赤丸の文	一行目 思春期ですので、児童生徒ではなく、生徒なのは。	ご指摘のとおりですので「児童」を削除しました。

項目	カラー 版頁	最新 版頁	内容趣旨	ご意見	回答
19	49	45～ 46	キャリア教育の推進	二つ目の●の段落は、ないほうが良いと思いました。(児童期と同じ理由)	<p>ご指摘のとおりですので次のとおり修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主権者教育」については、関連計画である「北海道教育推進計画」において記載されているものですが、青少年健全育成の観点からは「キャリア教育」の方がよりふさわしい表現であることから「主権者教育」の内容を削除しました。 <p>【削除部分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「●中学校では、生徒が、将来、有権者としての・・・考察し表現する学習活動を推進します。」 「●高等学校では、生徒が主権者として社会の中で自立し、・・・現代社会の諸課題について多面的・多角的に考察する学習を推進します。」

事務局の修正

関連頁	素案－検討案②	素案（最終案）	修正の考え方
4	<p>4 計画の対象となる「青少年」の範囲 ※本計画における用語の用い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年等の・・・(略) ・ <u>(追記)</u> 	<p>4 計画の対象となる「青少年」の範囲 ※本計画における用語の用い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年等の・・・(略) ・ <u>なお、児童虐待に関する項目については、「児童福祉法」の定義により0歳～18歳未満までを「児童」という用語で整理しています。</u> 	<p>計画本文中の児童虐待に関する項目で、思春期の青少年に対しても「児童」という文言を使用する部分があったことから、用語の用い方に追記したものです。</p>
19	<p>○新規学卒者等の早期離職（図の下の文章） 特に、<u>キャリアデザインがない若者の早期離職は、その後、転職の繰り返しによる労働条件の悪化、フリーター等の働き方を選ばざるを得なくなるなど、将来を担う若年者が安定した職業につけず、職業人としての能力を蓄積することが困難となる恐れがあります。</u></p> <p>このため、若年層の就業支援や、学校における望ましい勤労観・職業観の育成、新規学卒者の就職活動の支援など、若年者の離職防止や職場定着に向けた取組が必要です。 <u>(追記)</u></p>	<p>○新規学卒者等の早期離職（図の下の文章） <u>一方、将来のキャリアデザインがない若者の早期離職は、再就職が困難となるリスクや、その後、転職しても労働条件が悪くなるなどのリスクが高まるほか、企業にとっても、人手不足を助長し、採用コストの増加や技術・ノウハウの継承に影響するなど、若者・企業双方にとって重要な問題となっています。</u></p> <p>このため、若年層の就業支援や、学校における望ましい勤労観・職業観の育成、新規学卒者の就職活動の支援など、若年者の離職防止や職場定着に向けた取組が必要です。 <u>※キャリアデザイン：自分自身の職業人生、キャリアについて、自ら主体的に構想、設計すること。</u></p>	<p>検討案の記載では早期離職する若者の労働条件の悪化についてのみ記載していましたが、企業側からの視点も併せて修正したものです。</p> <p>キャリアデザインについて注釈を追加しました。</p>
22	<p>○施策体系図 I 青少年の豊かな人間性をはぐくむ環境づくり ◎困難を有する子どもを支援する環境づくり ○不登校対策の推進</p>	<p>○施策体系図 I 青少年の豊かな人間性をはぐくむ環境づくり ◎困難を有する子どもを支援する環境づくり ○不登校、ひきこもり等の対策の推進</p>	<p>中卒者、高校中退者の中にも「若年無業者」や「ひきこもり」という困難を有する者もいることから、修正しました。</p>
41	<p>○家族のふれあい時間の増進 ● <u>(新規)</u></p> <p>● 家庭教育における悩みや課題・・・(略)</p>	<p>○家族のふれあい時間の増進 ● <u>核家族化・共働き世帯の増加などにより、食卓を家族全員で囲むなど団らんの機会が減少していることから、企業等における働き方の見直しなどの意識啓発や関係機関との連携による社会的機運の醸成、長時間労働の抑制や年次有給休暇の取得促進など、様々な制度の定着に向けた啓発を行い、家族でのふれあい時間を増やせるよう、職場環境の整備を働きかけます。</u></p> <p>● 家庭教育における悩みや課題・・・(略)</p>	<p>乳幼児期・学童期に記載のある「家族のふれあい時間」について思春期にも追記しました。</p>

関連頁	素案－検討案②	素案（最終案）	修正の考え方
44	<p>○不登校対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不登校の早期発見・・・(略) ● 不登校の問題へのきめ細やかな・・・(略) <p><u>(追記)</u></p>	<p>○不登校、ひきこもり等の対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不登校の早期発見・・・(略) ● 不登校の問題へのきめ細やかな・・・(略) ● <u>高等学校の中途退学防止の取組の推進や、高等学校等の中途退学者への学び直しに対する支援を行うと共にキャリア教育の充実を図ります。また高等学校等の中途退学者が再び高等学校等で学び直す場合の支援を行います。</u> ● <u>若年無業者等を対象に地域若者サポートステーションにおいて就業意識の醸成を図るなど、国や経済団体、保健・福祉機関、教育機関等との連携を図りながら、若年無業者等の職業的自立の支援、正規雇用を希望するフリーターの正社員化などを推進します。</u> ● <u>若年無業者・ひきこもりの青少年やその家族が相談できる窓口の周知に努めます。</u> 	<p>施策体系図の修正により取組を追記しました。</p> <p>ひとり親家庭、経済的困難の項目に記載していましたが、こちらの項目が中途退学者を含んだ内容となっていることから移動しました。</p> <p>中卒者無業者、高校中退者で無業やひきこもりの取組を追記しました。</p> <p>(同上)</p>
	<p>○ひとり親家庭、経済的困難を・・・(略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 経済的な理由から・・・(略) ● <u>高等学校の中途退学防止の取組の推進や、高等学校等の中途退学者への学び直しに対する支援を行うと共にキャリア教育の充実を図ります。また高等学校等の中途退学者が再び高等学校等で学び直す場合の支援を行います。</u> 	<p>○ひとり親家庭、経済的困難を・・・(略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 経済的な理由から・・・(略) ● <u>(削除)</u> 	<p>「○不登校、ひきこもり等の対策の推進」へ項目移動</p>